

SCHOLARLY COMMUNICATION

世界の学術情報流通は、今

三根慎二

(慶應義塾大学文学部 非常勤講師)

NII オープンハウス 2007 CSIワークショップ
「はじめての機関リポジトリ」
2007/6/8 国立情報学研究所

本日の内容

- 学術情報流通の世界で起こっていることを広く全般に紹介
- Open Access Japanの取組みについて

3つのキーワード

- 現在、学術情報流通は、
 - **寡占化・高騰化**
 - **電子化**
 - **無料化（オープンアクセス）**
- の3つのキーワードに象徴される
- ただし、ここでの学術情報は、学術雑誌に限る。（学術情報流通の要であるため）

寡占化・高騰化

- **学術雑誌の価格の高騰**
 - 2008年度予測 7.7~9.8%の上昇（LJ 2007 4/15）
- **大手商業出版社・二次情報サービス提供会社の吸収合併の再燃**
 - Wiley & Blackwell, CSA & ProQuest
(Springer & Informa, Elsevier & Kluwer Medical?)
 - 約6,000タイトルが4商業出版社によって刊行される（査読誌全体の1/4）

電子化

- **主要出版社による学術雑誌の90%が電子化**
(Cox & Cox 2006)
 - ただし、日本の学術雑誌は例外
- **学術雑誌の所有からアクセスへ**
 - 流通形態・契約手法・アーカイブ手法の変化
- **大学図書館の本質的な機能が問われる事態に**

無料化（オープンアクセス）


- **学術論文に対する無料で制約のないオンライン上でのアクセスの提供**
 - 全世界規模での大学図書館による機関リポジトリの構築
 - オープンアクセスジャーナルの刊行
 - 国際商業出版社・大規模学協会による適応と抵抗
 - 欧米を中心とした政府・研究助成機関による学術情報流通への関与（アジアやオセアニアなどにも拡大）
- **学術情報の流通について、誰がどのような役割を果たすべきなのか、根本的な変革を迫られている**

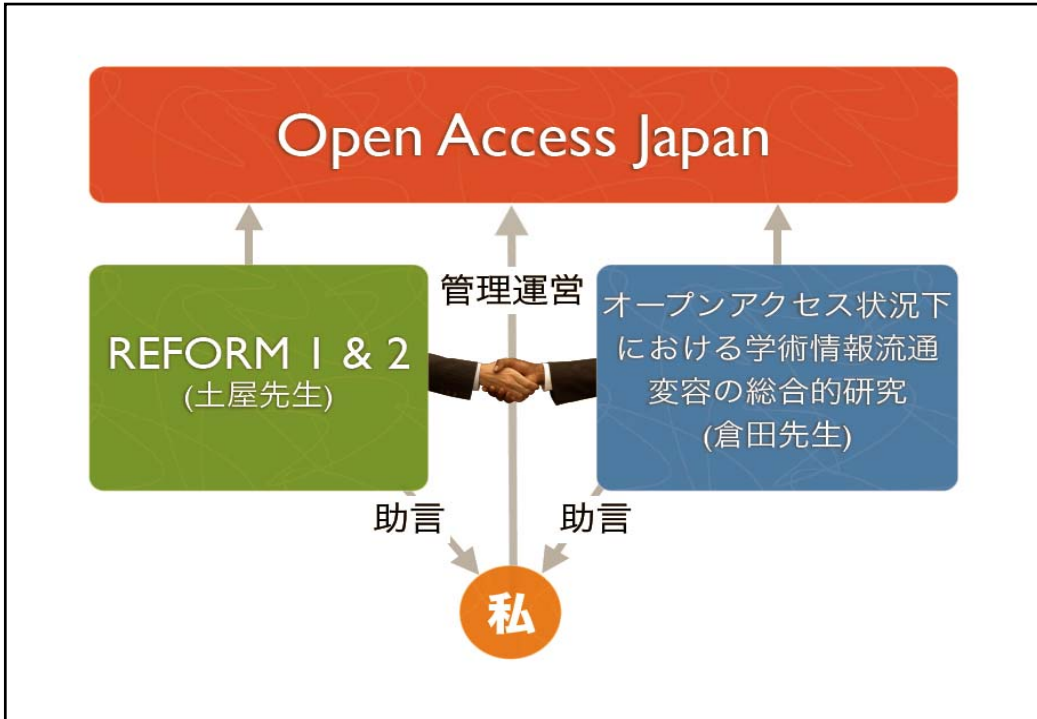
学術情報流通における 利害関係者の複雑化

“学術情報流通に関与する利害関係者は、
従来、商業出版社・学協会等の学術雑誌の
発行者、流通業者、図書館等であったが、
今や、それらに加え、国、大学、研究機関、
研究助成機関等、**科学技術・学術に関係する
すべての機関、個人が関わりを持つように
なっている”**

出典：学術情報基盤の今後の在り方について (報告)

Open Access Japan

- オープンアクセスに関する情報を、日本語で提供し、より多くの人々が正確な情報や知識を共有することを目的として設立されたポータルサイト
- 
- 日本における学術情報流通の将来に対して不可欠
 - 学問的議論の通常の媒体から踏み出て、日本語で情報を提供することが必要



提供コンテンツ

1. 速報性の高い出来事やニュース, 最新動向の紹介
2. 資料性の高い文献やWebページの収集, 組織化, 提供
 - オープンアクセス年表
 - オープンアクセス・機関リポジトリ関連文献リスト
 - 翻訳記事
 - 日本人研究者による発表スライド

日本のリポジトリ探訪記

- 日本の優れた機関リポジトリの実態について、担当者に聞く
- 運営構築、利用状況、登録コンテンツといった観点から紹介する
- 第1回目は千葉大学 CURATOR
- 近日公開予定

Googleで「オープンアクセス」